

学校名	和歌山市立雑賀小学校
授業者	藪 隆政

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

僕たちの大好きな海を守ルンジャー

1-2. 学年

4年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

「総合的な学習の時間」、「国語」、「社会」、「道徳」、「特別活動」

1-4. 単元の概要

この単元では、まず身近な和歌浦という場所について知ること、つまり「自分たちの地域の和歌浦が日本遺産に認定されていること」を知る活動からスタートする。まず和歌浦には史跡などの歴史的な価値があるものが多いことや自然の景色がとともきれいなところであることを知ること、もっとみんなに和歌浦を知ってもらいたいという気持ちを引き出す。そして、和歌浦がもつ魅力は、史跡だけでなく、まちの誇りである“聖武天皇の好んだとされる干潟の景色”などにもあることに気付かせる。そこを切り口に、海の学習を深めていく。

加えて、“親しむ”をテーマに、「海で働く漁師さんの仕事見学」や「地引網体験」、「干潟観察」、「遊覧船乗船」などの活動を重ねて、自分たちの地元の海を好きになるような授業や体験を行う。そこでは、海とともに生活する人や海を守ろうとする人と関わりながら、様々な人の和歌浦の海に対する思いを肌で感じられるようにしていく。そして、「こんな素敵な海を守っていかないといけない」「和歌浦の海は自分の地域の誇りだから、もっとみんなに知ってもらえるようにしたい」というような思いを引き出す。

次に、“知る”をテーマに、外部講師を招き、海のもつ魅力や不思議をクイズや実験を通して伝えていただく。海の満ち引きが起こる原因や、水温や塩分によって海中に層ができること、海に生息する生き物の不思議な行動などについても教えていただく。また、干潟観察にも帯同していただき、生き物を一緒に観察してもらうことで、子供たちの海に対する興味をより一層引き出す。この際、和歌浦と同じく水産業が盛んで自然環境や歴史を生かした観光で町づくりを進める。加太を見学することで、そこと比較して和歌浦の海独自の魅力を実感させることも考える。さらに加太見学を通して、友ヶ島には、漂流してきたゴミがとても多いこと、海の生き物がゴミによる被害を受けていることを知る。そこで、外部講師を招いての出前授業も何度も行って、海に対する愛着やさらなる疑問を引き出していく。子供たちは、何度も外部講師と関わる中で、人柄や仕事の内容にも興味を持ち、外部講師の仕事や思いを知ることを通して、さらに海について深く学ぼうとする姿勢を持つであろう。そのような学習を通して、今海で問題となっていることや、自分たちが解決しないといけないことなどを知り、海の環境保全を自分事としてとらえ、「何とかしないとけない」という思いが出てくることを願う。そして「知る」の集大成として、長年、和歌浦の清掃活動をされている渋谷さ

んに出会い、清掃活動が続けている理由や願いを知ること、自分たちの周りにもまちや海をきれいにし続けている人がいることを感じ取らせたい。

また、“海と川のつながり”や“きれいな川を守り続けている人の思い”について学ぶ。子供達は紀の川の下流域に位置する本校のある和歌山市雑賀地区と上流域に位置する川上村が紀の川を通じ、水でつながっていることを学習する。子供達は、川上村に住まれている方と交流したり、川上村が水源地にある村として、きれいな水を下流に送るなどの宣言を掲げていることを知ったりすることを通し、身近に流れる川の水が自分達だけのものではなく、つながりの中にあるものにとらえさせたい。また、きれいな水を守り続けようとしている方と出会うことで、自分たちは目の前の海を守りたいという思いを持たせたい。

最後に“伝える”をテーマに、今まで学習してきた経験をもとに、自分たちができることを考えさせる。そこでは、「いろいろな人に伝えたい!」という意見が出てくるであろう。「誰に何を伝えるのか?」を考えることで、自分たちが学んできたことを具体的に振り返ることができる。「自分たちが本当に伝えたいことは何で、それを伝えるためにはどうすればより相手に伝わりやすいのか?」等を自分たちなりに考え、必要な情報をまとめながらイベントや発表を行う。そうすることで、これまで関わっていただいた多くの方々の思いを知ったように、自分たちの思いを他者に発信し、伝えることの難しさと大切さを感じてもらいたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本プログラムにおいて、和歌の浦の海を題材にし、「親しむ」、「知る」、「伝える」の各テーマに沿って、地域の方や外部講師とともに、学習を進める。普段目にしている海を学習材とすることで、自分事として考え、海とともに生きる意識や態度を育成する。さらに、地域課題を地域とともに解決していく人材を育成することを目的とする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・「海」を視点として、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。
- ・和歌浦や加太には、海の自然を生かした様々な良さがあることを見つけることができる。
- ・和歌浦の課題や良さを見つけるために、他地域と和歌浦を比較することができる。
- ・地域での活動やお話を聞くことを通し、働く人の思いについて考えを深めることができる。
- ・地域と自分との関わりを踏まえて、自己の生き方について考えることができる。

1-7. 単元の展開（全90時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
第1次1時間	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「自分たちが住んでいる地域で自慢できるところを見つけよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分が思う和歌山県の自慢はどこか？」について発表する。 ※「自分が住んでいる和歌山市は自慢できるところあるかな？」について発表する。 	<p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから自分たちが学習していくことに興味・関心を持つことができる。(発言・ノート)
第2次19時間	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「日本遺産 絶景の宝庫 和歌の浦」の海についてもっと知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌浦の片男波や蓬莱岩で遊ぶ。 ・遊覧船にのり、和歌浦湾をまわる。 ・和歌浦の片男波で地引網をする。 ・和歌浦干潟にいる生き物の観察をする。 ・和歌浦干潟にいる生き物の調査をする。 ・県立自然博物館で和歌浦干潟の生き物の同定作業をする！ ・和歌浦のしらす加工場を見学する。 ・和歌浦湾でとれる「わかしらす」を食べたり、話を聞いたりする。 ・しらす漁師横田さんに話を聞く。 ・もう1度しらす漁師横田さんに話を聞く。 ・「どうしてやぶ新のしらすが美味しいのかな？」について話し合う。 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やぶ新 和歌浦漁業組合副組合長 横田邦雄さん ・和歌山県環境学習アドバイザー 平井研さん ・和歌山県立自然博物館 学芸員 國島大河さん <p><教師の指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学後の話し合いでは、自分が体験してどう思ったかを発表させる。 <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動やお話を聞くを通し、働く人の思いについて考えを深めることができる。(発言) ・和歌浦には、海の自然を生かした様々な良さがあることを見つけることができる。(発言・壁新聞) ・「海」を視点として、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。(発言・ノート)
第3次4時間	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">和歌浦の海と加太の海では違いがあるのか調査しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ和歌山市にある日本遺産に認定されている加太の磯にいる生き物を観察する。 ※和歌浦の海の生き物と比較し、それぞれの海の生き物や海での体験のよさなどに気づく。 ・平井先生に話を聞く。 ・和歌浦や加太に生息する生き物について調べ、また、身近でも海の生き物がゴミで被害を受けていることを知る。 ・和歌山市市企画再生課とSDGsのパートナーシップを結ぶ。 ・SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」の取り組みをしている和歌山市のS小学校とF小学校と海について交流しよう！ 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県環境学習アドバイザー 平井研さん ・和歌山市企画政策課 滝本智史さん <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平井先生や滝本さんの活動やお話を聞き、質問したり、感想を発言したりすることができる。(発言・ノート) ・「海」を視点として、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。(発言・ノート)

第4次 14時間	海と川のつながりを調べよう！	
	<ul style="list-style-type: none"> 川上村のペットボトルの水を飲む。 川上村について調べる。 紀の川の源流の川上村に見学に行く。 森と川の源流館 尾上さんに話を聞く。 見学に行って、わかったことや思ったことについて話し合う。 もう1度、森と川の源流館 尾上さんにもっと知りたいことを聞く。 話を聞いて、わかったことや思ったことについて話し合う。 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> 森と川の源流館 尾上忠さん <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの良さを見つけるために、和歌浦（海）と川上村（川）を比較することができる。（ノート・発言） 色々な視点から“海と川のつながり”を考えることができる。（発言・ノート）
第5次 8時間	加太の友ヶ島のゴミを調べよう！	
	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ調査をしたり、ゴミ拾いをしたりする。 拾ってきたゴミを分別し、結果をまとめる。 加太の友ヶ島でのゴミ調査をしてみて思ったことについて話し合う。 「自分たちがほっとけない海ゴミ問題を自分たちの力で解決することができるのか？」について考え、話し合う。 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌山県環境学習アドバイザー 平井研さん 和歌山工業高等専門学校 楠部真崇先生 <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌浦の課題や良さを見つけるために、加太と和歌浦を比較することができる。（ノート・発言） 「海」を視点として、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。（発言・ノート）
第6次 4時間	海ゴミ問題解決のために自分たちができることは何か考えよう！	
	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」の取り組みをしている和歌山市のS小学校とF小学校と海について交流する。 山口県のI小学校と和歌山市のF小学校とK小学校と取り組みについて交流する。 “海ゴミ問題解決のために自分たちができることは何か”について話し合う。 	<p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 海ごみ問題を解決するために取り組みをしている他の小学生と自分たちの取り組みを比較することができる。（ノート・発言）
第7次 10時間	雑賀小学校のみんなに、海の良さと問題を知ってもらおう！	
	<ul style="list-style-type: none"> 「何を伝えたらいいのか？」について話し合う。 各グループに分かれて、壁新聞つくる。 作った壁新聞を見て、評価してもらうためのアンケート用紙を作る。 評価してもらったアンケートを見て、思ったことについて話し合う。 	

<p>第8次18時間</p>	<div data-bbox="193 165 1294 241" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>和歌浦の海のゴミを拾うイベントをひらこう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで雑賀小学校のみんなにどんなことを聞けばいいのか考える。 ・アンケートを作って、各クラスにききにいく。 ・アンケートを集計する。 ・アンケートからわかったことを話し合う。 ・和歌浦の海岸のゴミ調査をする。 ・和歌浦でボランティア清掃を続けている人に話をきこう。 ・「なぜ渋谷さんはボランティア掃除を続けているのか？」について考え、話し合う。 ・「どうすれば多くの人に参加してもらえるのか？」について話し合う。 ・細かくゴミ拾いイベントの内容を考える。 ・一度、自分たちだけでゴミ拾いイベントをやってみる。 ・「ゴミ拾いイベントをやってみて、良かったところや直した方がいいところは？」について話し合う。 ・各クラスや地域の人に声をかける。 ・渋谷さんたちや他の学年の子と一緒に和歌浦のゴミ拾いをする。 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・N P O 法人 和歌の浦 自然・歴史・文化支援機構副理事長 渋谷高秀さん <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋谷さんの取り組みや思いを聞くことを通し、町や海をきれいにしようとしている人の思いについて考えを深めることができる。
<p>第9次10時間</p>	<div data-bbox="193 1267 1294 1344" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>わかやま海洋サミットで自分たちの思いを伝えよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちがみんなに1番伝えたいことは何か？」について話し合う。 ・伝える準備をする。 ・わかやま海洋サミットで伝える。 ・「自分たちの思いがみんなに伝わったのか」について考える。 	<p><ゲストティーチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県環境学習アドバイザー 平井研さん <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市や和歌浦には、海や川などの自然を生かした様々な良さがあることを再認識することができる。(成果物・発言・ノート)
<p>第10次2時間</p>	<div data-bbox="193 1653 1294 1729" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>今までの自分たちの学びを振り返ろう！</p> </div> <p>①自分たちの学びを振り返って、自分の変化や成長を書き、交流する。</p>	<p><教師の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習が思いさせるように、今までの活動の写真を掲示したり、ノートを見返すように促したりする。 <p><主な評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と自分との関わりを踏まえて、自己の生き方について考えることができる。(ノート)

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 4次14 時間中の 11 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

今までの学習などをもとにした考えを出し合う中で、比較したり、関連付けたり、見方を変えたりしながら自分の考えを確かなものにしたたり、新たな疑問を持ったりすることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 課題を知る。 「自分たちがほっとけないと思っている海ゴミ問題は自分たちで解決することはできるのかな？」</p> <p>2. 課題について話し合う。 C：ペットボトルや発泡スチロールのゴミが多くて、びっくりした。だから、難しいと思う。 C：外国からゴミや全国からきたゴミもあって、そんなにいろんなところからきていると思わなかった。だから、そんな自分たちはどうしようもないんじゃないかな。 C：思っていた以上にゴミが多くて、こんなに絶対解決とかできない。 C：できない。だって、プラスチックもめっちゃ小さくなっていて、拾いきるとか無理やと思う。 C：できない。だって、友ヶ島だけじゃなくて、日本でも友ヶ島みたいなゴミが集まる場所があるのに、拾いきれない。しかも、浮いていたり、沈んだりしているゴミもあると思うし…。 C：今まで関わってきてくれた横田さんや國島さんたちが大切にしてきたしらすとか生き物を守ってるんやから、できるとかできないとかではなくて、やるしかない。 C：平井先生とか今まで教えてもらった人はみんな自分だけじゃなくて自然のことを考えてやってるやん。だから、自分が諦めたらあかんと思う。少しでも、減らすことが今で切ることだと思う。 C：干潟観察や磯観察などの場所がゴミだらけになったら、生き物が人のせいで死んでしまう。自</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験したことや思ったことをしっかり言えるように、声かけをする。 ・写真を黒板に掲示したり、周りの子に問いかけたりして、一人一人の意見が周りの子と共有できるように支援する。 ・子供から出た疑問や対立意見から、話し合いを深めるようにする。

<p>分たちが楽しめたことも全部できなくなると思う。だから、自分たちが少しでもいいから守っていかないとあかん。</p> <p>C：横田さんがとってきたしらすに小さいプラスチックが入っていたら、美味しくなくなるというか、体に悪いとかなったら、おいしいしらすを食べてもらえなくなる。</p> <p>4. 今日の話合いの振り返りを書く。</p>	<p>・「海」を視点として、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。(ノート)</p>
---	--

3. 今回の活動の自己評価

<p>この学習の中で、様々な体験活動をしたり、多くの専門家に話を聞いたり、体験活動を行ったりしたことで、多くの子供たちの中に価値のある学習があった。1年間の学習を通して、個々の成長や変容が見られた。子供たちの振り返り作文や授業中の発言から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この学習で海ゴミ問題を知ったあと、目の前にあるゴミをできるかぎりひろったり、できる限り捨てるごみをへらしたりするようになった。」 <p>→これから自分自身の普段の生活を見直そうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は、この海の学習で、変わったと思うことは、考えることと調べることです。考えることの理由は、もともと私は皆が考えていることと、同じような考えしか持ってなかったけど、たくさんの人と関わって、聞いたり見たりしていたら、違う見方をするようになったからです。3年生のころや4年生のはじめは、人との関わりが少なかったから、たくさん関わって変わったと思いました。調べるのが変わった理由は、はじめは、SDGsのことや、総合でやっていることは何ひとつ調べていなかったし、調べてみようかな?と思ひもなかったけど、これも人との関わりがふえたからです。人との関わりをたくさんしていると、これってどんなんだろうとか、きくことが多いほど、ハテナがとんできたからです。だから、人との関わりっていろいろなことを変えるすごく大事なことだなと、深く思いました。だから、これからも人との関わりを大事にしようと思いました。」 <p>→友達の発言から自分の見方・考え方が変わった。</p> <p>→直接、多くの専門家の話を聞いたり、実際に体験したりしたことで、人との関わり大切さを学び、これからは人とのつながりを大切にしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この1年間でぼくはかわっていた。はじめは、人とも関わらなくてそうごうでぼく自しんがかわっていた。ふりかえりははん分ではなし合ひで思ひを言えなくて、ふりかえりで言えなかつた思ひをいれて、ふりかえりの文も多くなつた。話し合ひで言えなかつたのが、かわつて言えるようになったのが、そうごうの関わつたよこ田さん、たき本さん、そういった人に聞いたりしたとき自分はその人にはなす力があつたんやと思つて、話し合ひで3回、5回とふえてそしてちいきの人にあいさつを言えるようになった。自分や相手をりかひできるよになりました。そう合ひのおかげで、1、2、3年より色んなことがかわつたから、体けんやいろんな関わつてきた人のおかげで自分のみらいがかわつたと思ひました。そうごうをやつていたおかげでじんせいがかわつていたと思ひました。」 <p>→この学習で自分を表現できるようになったり、成長を感じている。</p> <p>この学習を通して、子供たちは、自分たちのまちや海が“誇り”になり、いろいろな場面でもこの学習の中で学んだことをいかしている。教室の授業では学べないことをたくさん学んだように思う。</p>
--

4. 今後の課題

- ・海の問題（ゴミ問題）の解決策がなく、「やり遂げた！」という達成感を出すのが難しかった。
去年の反省を生かして、アンケートをとったり、感想をもらったりして、達成感を味わうことも試みたが、少しは感じたと思うが、やり遂げたという思いまではいかなかった。ただ、全ては課題というよりも、海ゴミ問題に切実感を持ったり、自分の問題として考えている子ども数名出てきていたので、成果もあった。
- ・子供の思考の幅を増やすために、やれることややりたいことをあらかじめ想定しておいて、柔軟に対応できるようにしておくべきだった。子供の思考というよりは、教師の意図的な授業が多いように感じた。
→子供のやりたいという思いを大切にしたが、時数の関係で教師が意図的に誘導する場面も多かった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・特にありません。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。